町と歴史シリーズ ②

記録映画

京都

監修／京都市史編纂所

16ミリ価格／200,000円 カラー29分

洛中洛外

企画・製作 講談社 〒112 東京都文京区音羽2-12-21 TEL (945)1111(代)

英映画社 〒104 東京都中央区八重洲2-6-13 TEL (281)3414～5・4680

町と歴史シリーズ② 記録映画 京都 洛中洛外

対象
中学校社会科・高校日本史・成人（一般教養）

製作意図

千年の都、京都には、今でも歴史的な建造物や年中行事、そして日常生活の中に伝統文化が生き続けている。この「**町と歴史シリーズ**」第二作は、現在の京都の町のルーツをたずね、その歴史や伝統・文化が千年を経た今日の京都の町にどのように生きているかを探ろうとするものである。特に応仁～文明の乱で焦土と化した京都の町を復興し、王朝文化を新しく蘇えらせた人々――町衆に視点を向けているのがこの映画の特色である。

スタッフ

企画 製作 野間 惟道
脚本 演出 服部悌三郎
撮影 山添 哲
照明 岡本 健一
音楽 松村 禎三
解説 荒川 修
効果 小森 護雄
録音 甲藤 勇
演出助手 鈴木 康敬
撮影助手 小林 治
製作担当 宮下 英一
現像 内海 穂高
東洋現像所

協力

池坊総務所
上杉家管理事務所
梅沢記念館
裏千家総本部
岡山美術館
祇園祭山鉾連合会
北野天満宮
教王護国寺（東寺）
京都観世会
京都国立博物館
車折神社
建仁寺
慈照寺（銀閣寺）
大悲閣千光寺
中央公論社
東京国立博物館
西本願寺
平安神宮
八坂神社
六波羅蜜寺

▲京都の町並みに一層の美をそえる八坂の塔。

▲王朝絵巻を再現。葵祭り。

▲六角堂は、立華の家元、池坊である。

解説

公家と貴族の社会　794年、桓武天皇は都を奈良から京都へ移した。この新しい都は、唐の長安を模して造られたが、平安京の町組みは、今日もなお碁盤目状の町並みにその跡を知ることができる。平安末期に描かれた「年中行事絵巻」には、貴族たちの習俗や庶民の生活ぶりがうかがえる。そのころ、平安京を流れる鴨川や堀川はしばしば氾濫し、その洪水のあとには疫病が蔓延した。人々はこれを、世にいれられずに非業の最期を遂げた者たちの怨霊の祟りであると考えた。今も行われる御霊会は、こうした疫神怨霊を鎮める祭である。

武士の台頭　十二世紀になると、公家や貴族に代って武士団が台頭した。権力争いによる長い戦乱や、頻発する火災によって古い町は焼亡した。やがて動乱が治まると、それまで戦火を避けていた庶民たちは次々に都へ戻り、盛んに商工業を営み、再び町を復興させたのである。

洛中洛外図にみる町衆　人々は、自分たちの町の入り口に木戸を設け、盗賊の侵入や一揆の蜂起などに備えた。このように町ごとに団結して、生活共同体を営んだ人たちを町衆という。「洛中洛外図屏風」には、さまざまな店が軒を連ね、人々の風俗や商いの有様などが生き生きと描かれている。京都の町は、室町時代に商工業の中心として大きく発展し、町衆たちの経済力も成長した。

東山文化　室町幕府の将軍足利義政は、東山に銀閣の山荘を設け、ここを中心に東山文化が栄える。東山文化は、伝統的な公家文化と武家文化、それに舶来の禅宗文化などが融合してできた複合文化であった。それまで、貴族や武士の間に限られていた芸能文化、能・茶の湯・華道などは、経済力の高まった町衆たちの間にも享受されるようになった。

町衆と祇園祭り　ほとんどの「洛中洛外図」には祇園祭が描かれている。それはこの祭が、古くから町衆たちによって行われてきた京都の代表的な祭であったためであろう。応仁－文明の乱で、長い間途絶えていた山鉾の巡行を復活させたのも町衆たちであった。やがて豊臣氏が滅び、徳川家康が江戸に幕府を開くと、京都は政治の中心から離れる。その頃町衆のひとり角倉了以は、御朱印船貿易で得た資金で大堰川を開さくし、丹波から京都への物資の輸送を便利にした。さらに了以は運河高瀬川も開通させる。

元禄文化の創造者　町衆たちの力は優れた文化の創造にも発揮された。光悦・素庵・宗達・光琳・乾山たちは元禄文化の花を開かせたのである。

1868年、明治維新によって京都は又も試練を受ける。千年も続いた都が東京へ移ることになったが、京都の人々は新しい事業をおこし、西洋の技術を導入し伝統産業の近代化を進めた。京都は山紫水明の自然や町々の間に、千年の都としての歴史と文化を幾重にも積み重ねて今日に到っている。（29分）